

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 1 9 原作シナリオ

山崎浩治

1 「金沢プライベート・リサーチ」中

応接ソファでオネエ所長とアヤカが対面している。

オネエ所長「(申し訳なさそうに)トオルちゃんは仕事やめたわ」

アヤカ「(顔色を変えて)ど、どうして！」

オネエ所長「それが分からないのよ」

アヤカ「ラインも既読無視だし……トオルさんの住所、教えて下さい！」

オネエ所長「行ってもたぶん、いないわよ」

2 病室(大部屋)

窓際のベッドにいるトオルを見舞うオネエ所長とスーツ姿の若いツンデレ女(サオリ)。

オネエ所長「事務所にアヤカが来たの。もしトオルちゃんに会ったら、これを渡してくれって(クリスマスプレゼントの包みをトオルに渡す)」

トオル「(大切そうに受け取って)……」

オネエ所長「(サオリを紹介し)この子が臨時採用の探偵。あたしの娘……」

トオル「所長の娘ですって……！」

サオリ「(ニコリともせず)サオリです。ども」

オネエ所長「無愛想な子でごめんね」

トオル「(ニッコリ笑って)所長のこと、オレに代わって頼みます」

オネエ所長「(ムキになって)トオルちゃんの代わりなんていないわよ！ 二人でお笑い芸人めざそうって約束したじゃない！」

トオル「そんな約束した覚えありません！」

オネエ所長「それじゃ、アイドルグループ。トオルちゃんがセンター、あたしは最後列でいいから」

トオル「2人で何がセンターと最後列ですか！ それは単なる整列ですよ！……ってオレ、所長のボケにもうツッコめなくなるんだな(と寂しそうに苦笑)」

サオリ「(ソッポを向いて)このおっさんの相棒はあんただけ。早く職場復帰してよね」

トオル「(意外そうにサオリを見て)……」

3 アヤカの部屋(夜)

思い詰めた表情で手紙を書いているアヤカ。

4 トオルのアパート・表(別の日の昼)

やってきたアヤカ、チャイムを押すが、返答はない。

ポストに手紙を入れて立ち去る。

#5 オネエ所長の部屋・リビング(夜)

ドロップ缶を2つ前に置いて、真剣な表情で何か`作業、している菜摘。
その姿をキッチンから見ているオネエ所長。

#6 病室(別の日)

菜摘がトオルを見舞っている。

菜摘「ドロップ、あげる(とドロップ缶を振る)」

トオルの手の上に出てくるレモンの黄色いドロップ。

菜摘「トオルちゃんはいつもレモン！ レモンのドロップなめると病気が治るんだよ！」

トオル「(菜摘の頭を撫でて)ありがとな、なっち」

そこへ花瓶を抱えたオネエ所長が入ってくる。

菜摘「なっち、お庭でお花、摘んでくる！(病室を飛び出していく)」

トオル「(見送って)なっちはいい子ですね。ドロップ缶の中は全部、レモンなんでしょ」

オネエ所長「あの子、レモンのドロップが大好きなのに、トオルちゃんのために食べずに残しているのよ。あなたは彼女の初恋の人だから」

ベッドの枕元に置かれた幾枚かの写真。

オネエ所長「(写真に目をやって)……」

トオル「写真の整理、しとこうと思って」

オネエ所長「(写真を手に取り)アヤカの写真ばかり」

トオル「オレが死んだら一緒に燃やしてください」

オネエ所長「(一枚の写真に目を止めて)……この写真は」

スーツを着た大学生風のトオルがグラウンドで女子高生たちに囲まれている。

トオル「オレが母校に教育実習に行った時の写真です……」

オネエ所長「トオルちゃんって先生志望だったんだ……ん？(何かに気付く)」

トオル「所長、ちょっとお願いがあるんだけど……」

#7 「居酒屋まわりみち」表(夜)

店内で働いているアヤカーを物陰から見つめているトオルとオネエ所長。

オネエ所長「(いまにも倒れそうなトオルを支えて)アヤカ呼んでこようか」

トオル「いいんです。彼女に心配させたくないから……」

楽しそうに働いているアヤカの笑顔。

#8 病院の庭(数日後の昼)

トオルが乗った車椅子を押したオネエ所長がやってくる。

トオル「所長、前に言ってたでしょ？」

9 オネエ所長とトオルの会話(回想)

オネエ所長「あたしはね、オネエだから結婚できない。だから、あたしは死ぬ時、ウエディングドレスを着て死に装束にするんだ。人生最後の夢よ」

まぶしそうな眼差しでオネエ所長を見つめているトオル。

オネエ所長「次は必ず女に生まれ変わる。そう思えば、死ぬのも怖くないわ」

10 もとの病院の庭

トオル「オレも最近、死ぬのが怖くないんですよ。子どもの時からずっと会っていない親父と会えると思うから」

穏やかな横顔で庭の風景を見ているトオル。

オネエ所長「(いまにも泣きそうな顔でトオルを見守って)……」

11 トオルのアパート・表(別の日)

やってくるアヤカ。

部屋の郵便ポストにはアヤカが書いた手紙がいくつも差し込まれている。

アヤカ、衝動的に手紙の束を抜き、破り始める。

アヤカ「(泣きながら手紙を破り続け)……」

12 病室(深夜)

ベッドで横たわっているトオル。

虚空を見つめるトオルの視線の先に――アヤカが笑っている。

13 アヤカの面影

「まわりみち」や「スナック香澄」で働くアヤカ。

花火大会や廃線跡を歩くアヤカのイメージ。

14 もとの病室

アヤカの幻を見つめるトオルの瞳から涙がこぼれ落ちる。

その手に握りしめられたアヤカが編んだ手袋。

トオル「アヤカレー、もう一回食いたかったな……(と目を閉じる)」

15 「田舎の無人駅」のような駅のホーム

第15回に登場した列車が止まっている。

ホームに佇んでいるトオル。手にはアヤカからもらった手袋をしている。

その時、ホームの端に人影が現れる。

列車に乗りかけたトオルが気づき、目を細める。

近付いてくる人影は――トオルの父。

トオル「(父のもとに駆け寄って)遅いよ、とうと！　ずっと待ってたんだよ！」

父「すまんかったな。ほやけど、これからは一緒や」

列車に乗り込むトオルと父。

その時、ホームに始発ベルが鳴り響き、列車の車輪が動き出す。

#16 祭壇に飾られたトオルの遺影。トオルが優しく微笑んでいる